

本試験が
何を求めているのか？



そのヒントは、
過去問すなわち
「過去」の本試験分析
にあり！

過去問を
徹底分析して
作成された

TACの戦略的
カリキュラム

I 期 過去問分析期

夏から秋までに

本試験合格の条件の把握

まずは「**本試験問題**」を、**出題趣旨**等から徹底的に**分析**しましょう。そうすることで、「何ができれば合格か」が見えてきます。ここが定まると合格に必要な

- ①学習対象の確定ができ
 - ②無駄・有害な知識・テクニックの排除が可能となります。
- これにより以降の**勉強の方向性が明確**となります。

II 期 答練期

秋～年内までに

本試験の解き方の作法を理解する

年明けから本試験2ヵ月前までに

本試験の解き方をマスター

本試験の合格条件の把握後は、その条件に基づき、**本試験の解き方の作法**を理解し、身に付けます。

- これにより、
- ①本試験で求められている答えがわかる
 - ②その答えにブレなくとり着き、表現することが可能となります。
- ここまでたどり着けば、後は**本試験で実力を最大限に発揮**できるようになるだけです。

III 期 直前期

残り2ヵ月

総仕上げ 実力の精度を高める

これまでに培ってきた知識・技術を総ざらいして、**本試験で実力をピークに持っていく**ための準備を行ないます。あわせて、それまでに身に付けていて、弱くなってしまった部分を**再度強化**します。

これが最短合格への道！

I 期 過去問分析期

2010年 6月

9月

短答式 対策

短答対策解法マスター講義

【全25回】

短答対策解法マスター講義では、プレテストを含む全過去問から、過去問の重要問題を解いた上で、体系別の分析を行います。

これにより、

- ①**本試験で求められる「思考方法」**
 - ②**本試験を解くために必要な「基礎的知識の範囲」**
- を把握することができます。

II 期 答練期

10月

分析編

12月

2011年 1月 実践編

3月

短答アプローチ答練

分析編 12回

実践編 8回

【全20回】

短答アプローチ答練の問題は、初めて見る**短答本試験問題**を解くのと同等の訓練ができるよう、**短答本試験各問の出題意図**に基づき、講師陣の監修のもとに作問されています。

【分析編】（10月～12月）

公法系・民事系・刑事系の系統別を実施します。
「短答対策解法マスター講義」で学んだ思考方法が使いこなせるか確認します。できなければその原因は何かを分析します。

【実践編】（1月～3月）

本試験同様、1日3系統実施します。
より本試験に近い状況下でも、思考方法が使いこなせるか確認します。時間配分や自身の疲労の度合いなども把握し、本試験の解き方をマスターします。

III 期 直前期

3月

4月

直前対策 講義

【全7回】

今までに身に付けた知識・技術を条文に集約します。

↓ なぜなら

- ①短答式試験では条文を基礎として出題され
- ②論文式試験は本試験会場でする唯一の武器となるからです。

↓ 結果

- 本試験で
- ①短答は条文知識から解けるようになり
 - ②論文は条文を見て、知識・技術が想起できるようになります。

全国公開模試

【全1回】

本
試
験

総合本科生

答練本科生

選択科目

選択科目集中講義

労働法 倒産法

【全8回】

本試験合格に必要な項目・論点に絞った講義を行いますので必要最低限の期間で実施でき、必修科目と合わせた効率的な本試験対策が行えます。
選択科目の中でも、特に人気の高い「労働法」「倒産法」の集中講義を実施します。
※オプション講座になります。

選択科目答練

労働法 倒産法 知的財産法 経済法

【全2回】

本試験対策において手薄になりがちな選択科目。選択科目答練は人気上位4科目である「労働法」「倒産法」「知的財産法」「経済法」を実施します。過去問を徹底的に分析し、出題論点、分野を抽出し、出題傾向に沿った問題を出題します。また、解説講義では知識ではなく本試験でどのように論述すれば合格点が得点できるかに重きを置き、問題の解き方、論文の書き方を教授します。
※オプション講座になります。